

150 140 130 120 110 100 90 80 70 60 50 40 30 20 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

古布加賀

淡大夫曰

155
155

あやしー安井せば、皮着父村暮
古布のツレ、多う御奉の人へ
お旅せきまへ、カムーテ
そのかたとあづらひ、秋もるよ
ねのまほねをせせとあわせ
もく

まゆふまゆかー、やまとねすま、月井

名前

七十代緋袴あらうむーかく、谷口
紫林もとせうきととのが、美濃

草履や足袋をなまく入る、白丸

靴狩や足袋をなまく入る、李子経
祖父もととぞひよ兵衛の、少半

枝の枝へとがくとぬく、山口

むらかとせのとくらじや、あゆ
おゆ

日出ちや緋ふねいも手代の秋、今川

吉布

店 加

あく露ひゆみてまよくあられ相下

度見

弓矢アマリ一時ふえ、仰立み

紅葉ふねいの折り松葉せ跡、曾
賜うはまめはまう、歸まく、自

身一又竹四一月じ井と標号
きるうて、往よす志もまく、

かとゆふぞのふよとく、あくせ
れ、もとせのひ、かうう今世物
譲うふと、既不古布、又及、
親族をもとせ、他をの人へ、

まくつて、おもねる、まく、又、
おもむく、おもむく、おもむく、

まくつて、おもむく、おもむく、

頭教あ

古布

